

## ロングホームルームの 公開授業を実施

千葉県市川市にある千葉商科大学付属高等学校は昭和26年に創立され、付属高校としての建学の理想と校風を継承しながら、今日に至っている。創立者の森志久馬氏は、「実学実践学習の訓育を施し、付属高校生徒としての素養を身につけ、周囲の情勢におもねることなく常に中道を歩み、将来社会の要請に応えうる質実にして有為な人材を育成する」ことを目指し同校を創設した。この理念のもと、さらに社会の発展と変化に対応するために、平成16年度から男女共学をスタートさせている。

今回、同校を訪れたのは平成18年度のロングホームルームの公開授業が目的である。千葉県高等学校教育研究会生徒指導部会の主催で、同会関係者や地区生徒指導主事など約60名を対象として、全クラスを公開して実施された。

## 3D教育プログラムの

### 県内唯一の導入校

同校のロングホームルームでは、3D教育プログラムを実施。千葉県内唯一の導入校となり、学校全体として「豊かな心」の育成に努めている。

内容はエゴグラム診断とグループ体験学習、自己改善システムで、年間2回のエゴグラム診断があり、間目を確認している。

グループ体験学習にはいくつかの狙いがあり、狙いによって取り組むテーマ(教材)が変わってくる。例えば「思いやり・感謝の心を育てる」ために「思いやりって何だろう?」「親の思い」といったテーマを学習したり、「目標志向力を育てる」ために「10年後の私」や「私が勉強する理由」を学習したりなどテーマはさまざま。こうしたテーマを学校行事や時期などに合わせ年間カリキュラムに沿って進めている。

グループ学習で学ぶ

グループ討論や集団意思決定

2年生の6クラスにおけるロングホームルームでは、K A教育が開発した3D教育プログラムを活用したグループ学習が行われた。6クラスで実施内容(テーマ)は3つ。一つは「出場辞退」という小論文対策。二つめの「船長の決断」ではコンセンサスによる集団決定を体験するという内容。3つ目のテーマが「進学の必要条件を考える」で進学の必要条件についてグループ討論を行なうといった内容であった。

公開授業の見学者に配布された資料には実施要綱と各クラスで行なわれる授業の内容が記載されている。そこには「生徒の実態」との項目が



# Growth for success

## 「豊かな心を育てるための 3D教育プログラム」 千葉商科大学付属高等学校

### School Data

学校名 千葉商科大学付属高等学校  
住所 〒272-0835 千葉県市川市中国分2-10-1  
電話番号 047-373-2111  
HP Address <http://www.hs.cuc.ac.jp/>

【学校区分】私立・全日制・共学



あり、各クラスの集団としての性格やクラスの雰囲気などが記載され、同じテーマを行なうクラスでもその生徒の実態によって授業の進め方、生徒の反応などがどう変わるのかわ見ることが出来る。

例えば、コンセンサスの重要性を学ぶテーマの「船長の決断」を実施するBクラスとGクラス。それぞれ「生徒の実態」にはこうある。Bクラスは『非常に素直で明るい生徒が多いクラスである。しかし、自分の意見を主張することが苦手な生徒が多いため、コミュニケーション(討論)によるコンセンサスを得る経験が不足している』と。

逆にGクラスでは『明るく活発な生徒が多い。やや自己主張が強く、友人の立場や気持ちを尊重できない場面もある。クラス全体でコンセンサスを得る経験が不足している』と。コンセンサスを得る経験が不足している点では共通だが、その要因がこの2クラスでは異なっていて、授業の導入や生徒へのアプローチなどに注目が集まった。

### ハイエゴの生徒が増加 好ましい変化を遂げる

配布された資料には2学年のエゴグラム診断結果報告書が記載されている。現2年生の入学時と現状の比較分析で、CP、NP、A、FC、ACの5項目のハイエゴ(心のエネルギーが高い)が他校の平均値、1

年次の春の時点、2年次の秋の時点とそれぞれ出ている。結果から見ると1年春の時と比べ、2年次の時点ではCP、NP、A、FCが高い生徒が増えているのがわかる。学年全体として、ハイエゴの生徒が増加している、好ましい変化を遂げているとの報告であった。

同校では学力向上の他に「豊かな心」を育むことを重要視している。千葉県では唯一となる3D教育プログラムを実施している学校であるため、今回の公開授業のように外部からも注目を集めているが、具体的な数値からも効果が出ていると認識できるだろう。

### 校章の「柏葉」の精神に つながる人格形成

同校の校章は柏葉。柏の葉は冬季に枯れても落ちず、寒風霜雪に耐え、再び陽春を迎えて新芽が出るのを確かめた後、はじめて静かに散っていくという。

この柏葉の精神のもとに、地域社会の要望に応えるべく、「勤勉・友愛・礼法・勤労」という一貫した指導目標で人格形成と実践教育に努めている同校。今回の取材を通して、3D教育プログラムによるグループ学習がこの柏葉の精神へとつながる人間力を培っていくと感じた。新しく共学校として生まれ変わり、新鮮な空気が漂う同校の今後の教育現場に注目したい。





■ 導人の背景と現在の取り組み

それまで我が校では、ロングホームルームの時間にあっても生徒同士が話し合いを持つ内容がありませんでした。7年前に他校で3D教育プログラムを実施されている例を知り、まず初めに1年生の1クラスで試験的に導入・実施することになりました。実際に実施してみると、これは非常にいい内容だということになり、2年目から全学年で取り組むようになりました。

現在は、毎週木曜日の1限目のロングホームルームの時間を利用して、年間計画を立て、学期に3、4回取り入れていきます。3学年全クラスで実施し、学校全体として「豊かな心を育む特別教育プログラム」という

位置づけで取り組んでいます。学年ごとにテーマを変え、1年生では高校生活になじみながら取り組んでいき、2年生の後半から3年生の2学期までは、受験を視野に入れ、小論文対策や大学受験の推薦入試・AO入試に向けた内容で実施しています。

■ グループ学習を通して目指すもの

本校における3D教育プログラムを活用したグループ学習を通して生徒にこうなってもらいたいと目指しているもの、それはいくつもあります。一つには思いやり・感謝・道徳心を育てること、二つには目標志向力を育てること、三つには考える力を育てること、そして自己主張力を育てること、そして自己主張力を育

■ 3D教育プログラム導入の効果

本校は付属高校ですので普通科で約58%、商業科で約72%の生徒が千葉商科大学へ進学していますが、その他の生徒は他の4年制大学へ進学している状況で、その割合は年々高まっています。こうした進路状況において、生徒の希望する進路が実現できるように、自分自身を見つめる機会として3D教育プログラムを活用するなどの取り組みを行っています。

そうした中、グループ体験学習に

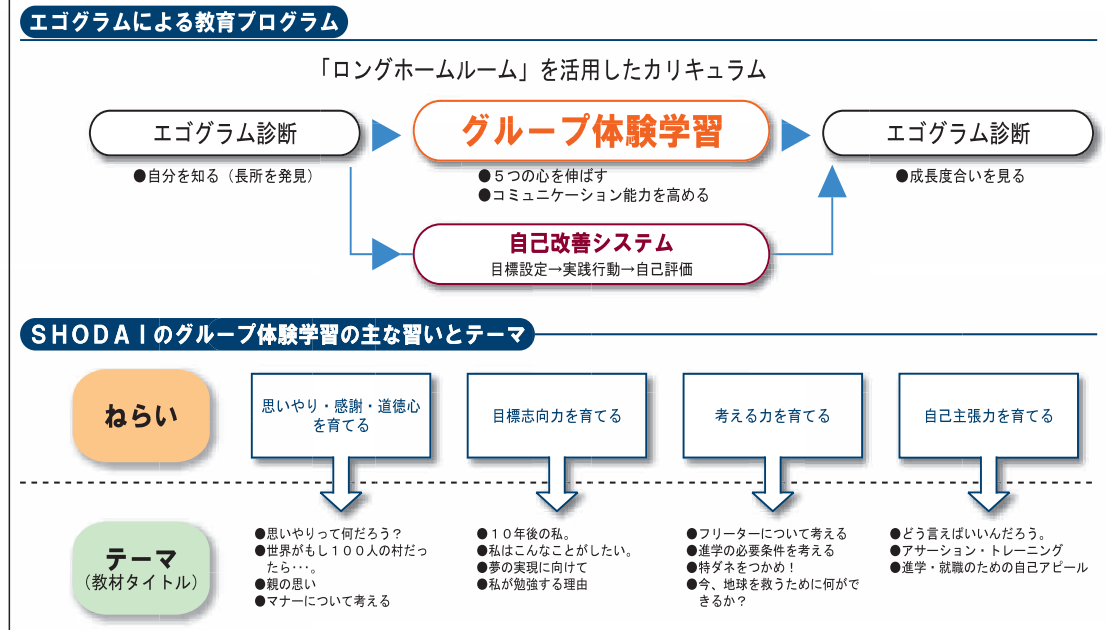
よって生徒のコミュニケーション力が增大してきていると思います。人前での発表の仕方も以前に比べると上手にできるようになったと思います。人前ですっきりと大きな声を出して発表ができた、人の意見に耳を傾け理解するなどの聞く姿勢もできてきています。こうした意見の整理やコミュニケーション力を身につけることがディベート、小論文などへ向けた対策として効果を発揮し、進路指導においてとても役立つと思っています。



インタビュー  
生徒指導部副主任 野中美津枝 先生

# 3人に1人がボランティア活動に従事 グループ学習で培う思いやりの心

「県内唯一」のエゴグラムによる教育プログラム  
エゴグラム診断+グループ体験学習+自己改善システム  
=心の成長



「県内唯一」のエゴグラムによる教育プログラム  
エゴグラム診断+グループ体験学習+自己改善システム  
=心の成長

え、また人の意見も聞きながら、豊かな心を育てていくことが大事だと思います。そうしていくことで現代の社会問題を克服するための能力ともいえる「心の成長」を生徒一人ひとりが遂げることができると思います。

■ 生徒の反応、変わった点

グループ学習では、グループで協力するテーマであればあるほど生徒の取り組む姿勢、クラスの雰囲気盛上がりしますね。全体として変わったと思うのは、思いやりや約束を守るといった点で本校の生徒は非常に高いところにあると思います。

本校では、地域の福祉施設のソフトボールチームとの交流試合や地域のお年寄りとのゲートボールでの交流、あしなが学生街頭募金など、地域活動としてボランティア活動に熱心に取り組んでいます。こうした活動において各クラスでボランティア委員会を募っています。全校生徒の約3割、3人に1人がこのボランティア委員に登録されているのも、こうしたグループ学習などを通して培われた生徒の資質の向上ではないでしょうか。

■ 今後へ向けて

実際、これまでの中で、学校行事などの準備が忙しくなり、予定通り実施できないこともありましたが、今後、学校行事などに配慮しながら年間計画を組み立てていければと思っています。

また、グループ学習を実施する中で、取り組む生徒の姿勢や雰囲気などクラス間による温度差があります。

★ 『3D教育プログラム』でココが変わった！

- ・ 思いやりのある生徒が増えている
- ・ 約束事を守る生徒が増えている
- ・ 発表や人の意見を聞く姿勢が向上し、ディベートや小論文対策に効果

す。そうした温度差を縮めていけるように、クラスでの取り組みを工夫した上で、効果的にできたケースがあれば、それを教員間で共有していきたい、より有効的な活用が学年、学校全体としてできればと思います。